

# 日本人学校・補習授業校 タマテバコ

トビラを開けたら、いろんなものが見えてきた……

## アメリカの補習授業校 インタビュー調査報告(2)

文部科学省国際教育課外国人児童生徒等教育支援プロジェクトオフィサー 近田 由紀子

AG5ではアメリカの補習授業校の現状把握とニーズ調査のために当地の6つの補習授業校を巡り、校長・副校長、運営委員、保護者や生徒の皆様インタビューを行いました。11月号に引き続き、アメリカの補習授業校訪問調査から、オースチン・セントルイス・ロサンゼルス各校の概要・特色ある取り組み・これからの補習授業校への期待について、ご紹介します。



### オースチン補習授業校 (オースチン日本語補習授業校)

テキサス州にある当校は、二〇〇〇年に設立され、在籍者は幼稚園を含めて一二〇名を超えます。運営委員は、全員保護者で、無償で務めています。各教室や廊下、図書コーナー等には、保護者や、高校生、卒業生のボランティアの姿があり、一丸となって子どもを育てています。

#### ① 特色ある取り組み

**コミュニケーションを促す指導体制**  
始業前の算数指導(希望者)では国語とは別の教員が担当します。例えば四年生の先生が算数では一年生を教えます。複数の教員で指導するため、子どもに対する悩みや指導について、教員間のコミュニケーションが活発になります。

また、データベース内の指導記録を共有できるようにしたこと、指導のヒントを得られて不安が軽減されたそうです。放課後、近い学年同士で相談し合える雰囲気もでき、より働きやすくなったといえます。**専門性を生かした幼稚園システムの確立** 日本の幼稚園教諭経験者を採用して、その優れた専門性を生かして幼稚園のシステムづくりを手掛けてきました。例えば、二クラス合同

の朝の会では、朝の挨拶から集団活動を通して社会性を育てています。講師の指示が適切なので、子どもたちは非常に落ち着いていました。早くから文字指導にも取り組んでいます。保護者ボランティアによる放課後九クラブ、小二・三年生を対象に九月〜十二月、保護者ボランティアが先生役となり、子どもたちの九九の暗唱を確認しています。合格した子どもには立派なトロフィーを授与。意欲が増し、九九の定着も進んでいます。

#### ② これからの補習授業校への期待

**キャリアを拓く身近なロールモデル**  
子どもの将来の選択肢を広げること、子どもが補習授業校で学ぶモチベーションを高めるために、ロールモデルの活用が望まれます。保護者の中には、自身も海外子女で、トリリンガルとして成長したことがジョブセキュリティ(雇用を守る知識・手法等)になったという経験をもつ方もいます。

新しいカリキュラム「帰国予定か永住予定かを問わず、モチベーションが上がる新カリキュラムと、そのガイドとなるものが欲しい」という校長の言葉には強い願いと期待が込められていました。教員や保護者からは「国語に日本のよさを伝える社

会科の要素を入れることが、メリットになる」「体験的な活動による学習も取り入れたい」「子ども自身ができることができないうところを分かっていることが重要」等、示唆に富む考えが伝えられました。

### セントルイス補習授業校 (セントルイス日本語教室)

ミズーリ州にある当校は、今年四十周年を迎えました。幼稚園・国際部を含めて約一七〇名が在籍しています。保護者から選出された運営委員長、運営委員らによって月一回委員会が開催され、運営上の課題やイベントの企画等も協議されています。また、日本祭への参加・新年会の開催等により、地域に日本文化を発信したり地元の方々とのつながりを深めたりする拠点となっています。これらは、六割を占める永住予定の方々が牽引し、保護者の積極的なボランティア活動により支えられています。

#### ① 特色ある取り組み

**黒字に変えた補習授業校の経営** 現地の高校生や大人を対象とした国際クラスと幼稚園年少クラスの設立により経営が黒字になりました。国際クラスは、日本語のレベルごとに編成され、一単位時間だけの授業です。

国際結婚した保護者の受講も多く、中には日系企業へ就職した例もあるそうです。幼稚部年少クラスのニーズは年々高まり、五年前に設立されました。年少・年中・年長合わせて三十七名の園児が在籍しています。

現地採用講師研修会のホスト 教員の質の向上と研修のために、毎年、持ち回りで行われる現地採用講師研修会が今年はセントルイスで開催され、小・中学部の全教員が参加しました。他校の教員との交流や情報交換も活発に行われ、研修のよさを実感した教員たちからは更なる研修の機会を望む声が上がったそうです。

**個人差への対応** 日本語力で学習が制限されず、子どもたちの多様性に満ちたアイデアや知恵を引き出せるように、1Tの活用や、日本語の取り出し指導(希望者)ができる体制を整えています。中学部担当の先生は、宿題にポップ・ステップ・ジャンプの段階とポイント制を導入。生徒は自分に合ったレベルやポイントを考えて選ぶなど、自己管理しながら達成感をもつことができるので、学習意欲も高まっているそうです。

**②これからの補習授業校への期待**  
人をつなぎサポートするシステム  
指導方法、教材、運営方法等、様々なリソースを活用できるポータルサ

イトの設立が望まれます。研修や交流に関しても遠隔システムを活用して学び続けたいとの願いがあります。

運営委員長は、当校出身者が例えばMissouri Universityに積極的に受け入れられ、日系企業でインターンシップのチャンスをもつようなつながりができるとよいと話していました。

**幼稚部への支援** 幼稚部のニーズは増えているものの、現在支援対象でないため、図書(絵本・紙芝居)・視聴覚教材(ビデオ・DVD)・教具(楽器・おもちゃ等)が不足しており、リソースの充実が望まれます。

### ロサンゼルス補習授業校 (あさひ学園)

カリフォルニア州にある当校は地域に四つのキャンパスをもち幼稚部から高等部までである大規模校で、二〇一九年、五十周年を迎えます。理事長や理事は、南カリフォルニア日系企業協会より選出されます。校長は文部科学省派遣三年目、事務局長は教職も含め三十年、副校長も教職を含め八年勤務と、ベテランが基軸を担い、伝統と実績を生かしつつ多様なニーズに応えられる教育の実現を目指しています。五十周年記念行事に向けて、HPには卒業生の体験談や様々な情報が発信されています。

### ① 特色ある取り組み

違いを認めた上での「学び合い」へ これまでに、日本語力の差が広がっていく子どもたちへの適切な指導を目指して、習熟度別のシステムを様々な方法で試してみたものの、いづれも期待する成果よりも差別感を生むことになり、なかなか上手くいかなかったそうです。日本語力が違っていても共に学んで力を高める方法を考えることが最善と、日本語力のクラス分けをやめました。互いの違いを認めた上で一緒に「学び合う」という形態は「あさひ学園二〇一七年ビジネスプラン」でも経営可能と判断されました。

### 「学び合い」へ向かう教員研修

毎月一回三十分間の教員研修で、「学び合い」もテーマにしてみました。経験の少ない教員にも分かるように、教員のやる気を刺激することを大切に、「分からないことがあった時に隣の人に声をかけをすることから始まること」、「多様性に富む補習授業校での学び合いは、子ども同士だけでなく教員も含めて意義があること」を伝えました。「予測困難な社会だからこそ、多様な子どもたちのコミュニケーションを通して課題を解決していく『学び合い』が大切であり、そこに塾との違いがある」とい

う校長のメッセージが印象的でした。アイデンティティを支える中・高部 補習授業校に通学する目的が分からなくなったりアイデンティティクライシス(自己喪失)に直面したりする生徒たちがいますが、卒業文集や卒業生便り(HP掲載)から彼らが迷いを通り越していくことが読み取れるそうです。とりわけ中学部から高等部に進級する時期に、生徒の内面に「化学反応」が起こり、日米どちらの大学に進むか等、選択肢を広げていっているようです。ある保護者は、多感な時期にこそ補習授業校があつてよかったと振り返っていました。

### ② これからの補習授業校への期待

補習授業校の新たな役割 補習授業校は現地校とも日本の学校とも違う特殊な世界。挨拶などの生活様式や日本の学校文化を教えることへの期待と共に、いろいろな学ばせ方があつてよいのではないかとという提案がありました。例えば、日本とICTでつなぎ討論会を行えば、多様な考え方に気づき、日本の子どもたちにもメリットになるといいます。

このようによりよい教育を願う皆様と共に、AG5はチャレンジしていきます。次号もお楽しみに！